

**「木山ビジョン 2026&木山仮設団地跡地における暮らしの拠点づくり計画(案)」
に関するご意見と町の考え方について**

提出者：1 名

意見数：5 件

番号	意見	町の考え方
1	住宅と広場をより直接的につなぐ歩行者動線。計画案では、住宅エリアと広場の間を比較的大きな道路が通っていますが、住宅と広場の一部は道路を介さず、歩行者が直接行き来できる計画にしてもよいのではないかと思います。 私の祖母が、運動のために宮園の自宅から運動公園までよく歩いていたことを思い出します。特に高齢者や子どもにとって、車でアクセスしやすいことだけでなく、「家から歩いて自然に広場へ行けること」が重要だと思います。	住宅と公園が隣り合うだけでなく、公園を日常的に利用できる「暮らしの延長にある場所」として位置付けることは、本計画において重要な視点だと考えています。住宅から公園へ歩いてアクセスしやすく、日常的に利用しやすい空間のつながりを確保することが重要です。 一方で、現在の計画では、住宅側の防犯・安全面、自家用車によるアクセスの利便性、公園の維持管理のしやすさなど、複数の観点を総合的に考慮し、住宅エリアと公園の間に道路を配置しています。 そのうえで、ご意見にある「家から歩いて自然に公園へ行ける」という視点も踏まえ、道路によって住宅と公園が分断された印象とならないよう、住宅と公園をつなぐ歩行者動線や、木山ビジョンで掲げる「縁側」のコンセプトを踏まえ、人が自然と外へ出たくなるような空間のつながりについて、今後の基本設計で検討してまいります。

番号	意見	町の考え方
2	住宅と日常的な店舗をもっと近づける。住宅と商業施設を明確に分けるのではなく、住宅のすぐ近くに小さなカフェや店舗などがあるとよいと思います。例えば、地域のお年寄りが朝歩いてコーヒーを飲みに行き、自然に人と会えるような場所です。 広場だけをつくるのではなく、毎日の生活の中で人が集まる「理由」を住宅の近くにつくることが重要だと思います。	本計画では、Park-PFI等の活用を視野に入れ、あくまで公園利用者の利便性や滞在の質を高めるための店舗・施設を公園内に導入することを検討しています。 そのうえで、これらの店舗・施設を住宅エリアからも歩いて立ち寄りやすい場所に配置することで、日常的に利用できる身近な店舗があることが、公園に自然と足を向けるきっかけとなるような空間設計が可能と考えています。 いただいたご意見を踏まえ、公園を訪れることと日常の暮らしが自然につながるよう、住宅と公園、店舗・施設の位置関係や歩行者動線について、今後の基本設計や民間事業者との事業化検討の中で具体化してまいります。
3	季節ごとに訪れたいくなる仕掛け。町外から人を呼び込むことも重要ですが、一度訪れるだけでなく、二度、三度と訪れたいくなる理由が必要だと思います。 例えば萌の里のコスモスのように、季節によって風景や活動が変化する場所があると魅力的です。秋のPumpkin Patch、冬のクリスマスマーケット、春の花など、年間を通して異なる体験が生まれる仕組みが考えられると思います。	当該エリアにおける持続的な賑わいを創出するためには、施設や空間の整備だけでなく、イベントや季節ごとの演出等、ソフト面の仕掛けが不可欠であると考えます。 ご提案いただいたような季節感のある計画や年間を通じてみんなで楽しめるイベント等が展開できるような空間活用について、公園整備後のパークマネジメントや管理運営も見据えながら事業計画の検討を深めてまいります。

番号	意見	町の考え方
4	道路から活動が見える計画。道路沿いを大きな駐車場とすると、市内から阿蘇方面へ向かう人から見た際に、敷地内部の活動が見えにくくなってしまうことが気になります。 萌の里や道の駅あそ望の郷くぎのは、地形や高低差によって道路から場所の雰囲気や人の活動が見え、「少し寄ってみよう」と思えるところがあります。 駐車場を全面に配置するのではなく、道路から広場、建物、人の活動、季節の風景などが見える配置を検討してほしいです。	道路から敷地内の活動や雰囲気が感じられることは、施設への立ち寄りを促すうえで重要な視点だと考えています。 くわえて、公園利用者にとっては、道路や車の往来を過度に意識せず、落ち着いて過ごせる環境も重要です。そのため、道路からの視認性を確保しながら、公園内では適度な緑や高低差、建物等によって視線や車の存在をやわらげるなど、外からの見え方と中での居心地の両面から空間を検討することが重要と考えています。 いただいたご意見を踏まえ、道路から広場や建物、人の活動、季節の風景などが感じられ、「立ち寄ってみたい」と思えるような景観をつくりつつ、公園内では安心して滞在できる環境となるよう、駐車場や建物、広場、緑地等の配置や視線のつながりについて、今後の基本設計で検討してまいります。

番号	意見	町の考え方
5	現在、調整池が計画されている場所は、住宅や広場、周辺地域をつなぐ上で非常に重要な場所だと思います。そのため、この位置を調整池として使用してしまうのはもったいないと感じます。例えば、この場所にアンフィシアターや野外ステージなどを設け、地域のお祭りや発表、以前公民館などで行われていた地域イベントを開催できる場所にすることで、住宅と広場をつなぐ中心的な公共空間として活用できるのではないのでしょうか。調整池については、敷地全体の歩行者動線や公共空間の連続性を妨げない別の位置・配置方法を検討できればと思います。	ご意見のとおり、調整池の位置は、住宅と公園、周辺地域をつなぐ歩行者動線や公共空間の連続性を考えるうえで重要な場所であると認識しています。 そのため、調整池の配置については、雨水対策という防災上の機能だけでなく、周辺の広場や緑地、歩行者動線等と一体となった公共空間としての活用も含めて検討することが重要だと考えています。 また、アンフィシアターや野外ステージなど、地域の祭りや発表、イベント等に活用できる場についても、住宅と公園をつなぎ、地域の交流や活動を生み出す空間として参考となるご提案と受け止めています。 調整池に必要な防災機能を確保することを前提に、位置や形状、周辺空間との関係を一体的に捉え、平常時にも人が集まり、住宅と公園をつなぐ公共空間となるようなあり方について、今後の基本設計で検討してまいります。